

「原子力関連学科・専攻の学生動向ならびに  
原子力関連企業・機関の採用状況の調査」

日本原子力産業協会 人材育成部  
藤原 尊徳

Japan Atomic Industrial Forum, Inc.  
Takanori FUJIWARA

原子力人材育成ネットワークでは、2015 年より「原子力関連学科・専攻の学生動向調査と原子力関連企業・機関の採用状況の調査」として、2007 年以降の学生の原子力関連学科・専攻への入学状況、在籍状況、就職状況のデータを収集している。学生の動向は“原子力”に対する若い世代の意識がどのように変化しているかを示す客観的なデータとして有用であり、また今後の原子力人材育成の進め方について総合的な検討を行っていく上で重要なデータであることから、企業の採用動向のデータと合わせて経年変化を追っていくことで原子力人材の需給トレンドを伺うことができるものと考えている。

本報告では、本年度の「原子力関連学科・専攻の学生動向ならびに原子力関連企業・機関の採用状況の調査」の結果を報告し、近年の人材需給トレンドを紹介する。

原子力関連学科・専攻の学生動向について、原子力関連の研究室に在籍している学部 4 年生は約 490 名、修士 1 年生は約 370 名、博士 1 年生は約 40 名となっており、学部 4 年、修士 1 年、博士 1 年を合計して 800~1000 人前後で推移している。進学者等を除いた就職する学部卒業生の割合を見ると、過去 10 年で、原子力関連へ就職する学生は 3~4 割で推移している。

原子力関連企業・機関における原子力部門への採用状況について、電気事業者、原子力関連主要メーカーともに採用人数が伸びており、原子力専攻だけでなく電気、機械、化学・材料系の学生採用数が増加傾向にある。特に、2025 年度の原子力関連主要メーカーの採用人数は、東日本大震災以前の採用数を上回る結果となった。